

スロー・ルッキング

時間をかけて丁寧に観察する

事例

目で見ただけでなく、五感を使って見る

- ①カリフォルニア州オークランドで、ネジ回しを手にした4人の中学生3年生が机を囲み、ドアノブを分解しています。手と目を使って、ドアノブの複雑さや相互に関連している部品を調べています。机の上には大きな紙が置かれていて、そこにメモやスケッチをしながら発見したことを記録しています。
- ②中央アジアでは、一人のジャーナリストが古代シルクロードの経路を徒歩で旅しています。スロー・ジャーナリズムの実践者である彼は、トップニュースにならないような話に耳を傾けています。ウズベキスタンのサマルカンド郊外で、彼は伝統的な紙漉き職人を訪ねます。そして、木の皮を叩いて繊維状のパルプにする、水車で動く木製の槌を観察しています。紙を乾燥させて仕上げると絹のような柔らかさになる、と彼は書いています。
- ③マサチューセッツ州ボストンの美術館では、一枚の大きな絵の前に研修医たちが集まっています。かれらの目的は、美術品を見て観察力を養うこと。ミュージアムのガイドが「絵をよく見て、何が見えたか話してください」といいます。会話を重ねるうちに、同じ視覚的な手がかりにもとづいているにもかかわらず、それぞれの解釈が違うことに驚きあっています。この経験は、自分たちの臨床実践について改めて考えるきっかけとなるのです。
- ④マサチューセッツ州ケンブリッジの川向かいでは、中学生がコンピュータの画面をのぞき込み、池の生態系を再現した没入型の仮想環境に入っていきます。自分の体を縮めてごく小さな潜水艦に乗り込み、池の底を探索していくと、微細な生物を発見します。そして、時間的をかけてそれらの生物の行動を丁寧に観察します。
- ⑤インドのチェンナイでは、十一歳の少女が、慣れ親しんだ環境を新鮮な目で見ようと、近所をゆっくりと散歩しています。写真を撮ったり、今まで気づかなかったことをメモしたりします。そののち、彼女はオンラインのフォーラムにログインし、散歩の様子を投稿します。同じような散歩をした他の国の生徒の投稿も閲覧し、かれらの目を通してその地域を見るのです。

スロー・ルッキングの重要性

1. 素早く見る人間の自然な性質に対してバランスを保つ

2. 一般的な教育では、「ゆっくり見る」ことが重要視されていない傾向

ファストマインド: 視覚的な第一印象による判断、迅速で直感的な自動判断

スローマインド: 慎重な思考、証拠に基づいた推論、分析的思考、慎重な意思決定 ← 訓練が必要

↑
スロー・シンキング

スロー・ルッキング: 細部を観察する能力、解釈を先送りする能力、慎重に判断する能力、主観性を意識する能力
異なる視点間を注意する能力、第一印象を乗り越える方策を意図的に用いる能力

3. よく見ることは、人類共通の価値 → 複雑さを解決、物事の多面性の認識、何が真実で正しいかの判断